

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂
編集発行人 村上徳存
電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127

毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺
印刷所 東田印刷株式会社

コロナ禍中

—無寒暑の処—

住職 村上徳存

七月二日は半夏生で夏安居の半ばとなります。当山では、首座の法戦式が行われ、首座和尚が、「釈尊・拈華微笑の話」を挙唱し、修行僧と共に、禅問答を展開し、第一祖迦葉尊者の伝法の因縁を参究し、修行の成果を実証します。気候的にも、梅雨明けと共に、暑さも増し、お盆前となり、植物も成長し、一層の精進を促進される時節でもあります。

夏安居は、首座和尚を先

頭にして、一衆、和敬随順して弁道する好時節でもあります。

日本全国、暑い時節となります。暑い毎日を過ごしながら、如何に弁道するかが、修行道場の課題となります。

中国禅宗史上、曹洞宗の開祖とも言われる、洞山大師・良价和尚(八〇七〜八六九)に、「洞山無寒暑の話」があります。

「僧問洞山、寒暑到来、如何廻避、山云、何不向無寒暑処去、僧云、如何是無

寒暑処、山云、寒時寒殺闍黎、熱殺闍黎」
(碧巖録四三二)

この公案の眼目は「無寒暑処」というにある。寒暑は気象上の事象ではあるが、人間の生死の一大事にたえたもの。これを、廻避することは、寒暑、すなわち生死を逃避することではなく、寒暑生死に徹することを示した公案である。

僧は、洞山大師に、暑い日が続く、寒い日が続いたら、如何したら良いかを訊ねると、尊公は、その暑さ寒さ、そのものに徹せよと答えられた。唯、寒暑のみならず、日常生活の生死そのものに徹底せよと教えられたのである。

一昨年に引続いて、未だ、コロナ感染症の収束には至っていない。世界中にまん延して、ワクチンの接種に、その対策に当たられる方々、高齢

者にワクチンの接種も始まっている現在の状況である。

山内の役寮様方、ほとんど県外の住所地が多い、又、安居者も、十人中、七人は県外に住所地がある。ワクチンの接種は、居住地を基本としているので、もし接種するのであれば、県外に出て接種を受けねばならぬことになる。

古人の歌に、

「寒熱の地獄に通ふ、茶柄杓も、心なければ、苦しくもなし」とあります。この世の中を地獄とみるか、その中で、坐禅を行じて、我々の本来の面目を現前して、寒時は寒殺し、熱時は熱殺して、それぞれの道に進んで行くことである。

三密を避け、マスクを着け、消毒をして、ウイルスの感染を除くことを行じてゆくことである。

緊急事態宣言が解除され、

せっかく、ワクチンの接種が行き渡っても、猶、自粛生活にvarietyない。それぞれが、自分自身の生活に規制を設け、ウイルスによる感染症に対する抵抗力をつけることである。合掌 祈禱



楞嚴会朝課

テレホン法話(〇八九七四一〇〇三三)

禅のたより



◆愚痴

今日は、仏教用語のお話の4回目「愚痴」です。

私事で恐縮ですが、このところ愚痴が多くなっている我が身に気がついて、年金世代にもなつて、なんともまあお粗末なことよと反省しきりでした。そしてその、愚痴の原因は何かと言え、お恥ずかしいことに自分の行いに対してなのです。

実は、去年の秋に健康のためにと、息子からスポーツタイプの自転車を送られてきました。せっかくのプレゼントだからと乗り出してみると楽しくて、調子に乗って20km 30km 50km 100kmと、走る距離をどんどん伸ばしていききました。

ところがある日、トンネルの中でバランスを崩し、転倒

してしまったのです。どうやら、気を失っていたらしく、たまたま通りがかつた人が通報してくれて、近くの病院に救急搬送されました。

肋骨三本が折れて坐骨にヒビが入っていたため、横になつているときは不自由を感じないもののトイレに行くにも杖をつかないと歩くこともままならない状況でした。

退院してからもそんな状態が続いていたある日、「なんてことだ、まったく…」と、ことあるごとに愚痴をこぼしている自分に気がついたのです。まるで世の中で自分だけが辛い思いをしているように嘆いている自分を情けなくさえ感じました。

さてこの「愚痴」という言葉。愚痴も共にオロカと言う意味です。一般的には、

言うても仕方がないことをクドクド嘆くことを「愚痴」と言いますが、仏教では、愚かなこと、無知であることを「愚痴」と言います。

正法眼蔵随聞記という書物の中には、宗祖道元禅師さまのお言葉として『愚痴なる人は、その栓なき事を思い云うなり』『オロカなる人というものは、かいいないことを考えて言うものだ』と出て参ります。

つまり、オロカという言葉葉そのものだったわけですが、それが江戸時代には「間違った意味のないこと」となり、現在のようない言うても仕方の無いこと」というふうに変化してきたようです。

おりしも五月病が話題になる時期ですが、この春新しい学校や職場でスタートを切った皆さんのみならず、どんな人にも「今まで」と「今」とが違ふということが多々あるうかと思えます。そんなときこそ、今までが良かったという思いにとらわれて後る向きにならぬ

よう、愚痴なる人にならぬよう、気持ち切り替えて、今、そしてこれから大切に、前向きな一歩を踏み出していただきたいと思うのです。かく申す私も、愚痴

なる我が身を反省し、先ずは昨日より今日、今日より明日と、すっかり落ちた気力体力の回復に努めてまいります。

高知県浄貞寺 伊藤正賢師
令和三年五月二十一日〜三十一日

◆今を生きる

心 偈

開花を喜び

落花を歎かず

詩國より

大休活宗

私の叔父にあたる大休活宗老師の偈です。

活宗老師は、三月二十八日に住職を退董され、お弟子さんに後を譲られました。

ご老師は、長期療養中で晋山式も病院でした。晋山式

で紹介されたのが、この偈でした。

この偈は、砥部の坂村真民さんの

「今を生きる」という詩から書かれています。

今を生きる 坂村真民

咲くも無心 散るも無心

花は嘆かず 今を生きる

皆さんは、日本の花と言えは何を思い浮かべますか。やはり「桜」をあげられるのではないのでしょうか。

平安京の時代は、梅が一番の花だったようですが、九世紀になると桜が植えられ広がったと聞いています。一休禅師(二休さん)は、桜について

桜木を砕きて見れば

花もなし

花をば春の空ゆもちくる

と詠んでおられます。

花が咲く前に、桜の木を切つてもその中に花の姿はありません。しかし暖かくなり春がやってくれば黙っ

ていても咲きます。

桜の木は例えば『昨年、花見客のマナーが悪かったから、今年は、早く散ろう』とか、『皆が喜んでいるからもつと長く咲いていよう』なんて考えません。春が来たら花を咲かせ散つていきます。

人間だけが、愚痴を言ったり良いことはいつまでも長く続いて欲しいと思つたりします。

しかし、花は時期が来たら咲き、時期が来たら散ります。そこには、人間のようには思い入れがありません。そんなことは当たり前だと思われるかもしれませんが、その一瞬一瞬を生きています。

しかし私たちは、事が起るとなかなか受け入れるということがなかなかできず、そこに苦しみが生じてくるのです。

偈の如く「開花を喜び落花を歎かず」楽しい時も苦しい時も無心にひたすら生きたいものです。

瑞應寺専門僧堂

監録 金岡 潔宗

令和三年六月一日〜十日

◆ 諸行無常、だから変われる

だから変われる

先日、親しくしている高校生に、こんなことを言われました。「どうせ人間、いつかは死んでしまうのに、どうして勉強しなければいけないのでしょうか？勉強をして、良い学校に行つて、良い仕事に就くことはできるかも知れないけれど、使いたくない知識を詰め込むことに、意味があるのでしょうか？人間、いつかは死んでしまうのに、勉強なんかしても意味がないと思います。仏教でも、諸行無常と言っていますよね？」というのでした。

この諸行無常という言葉。『すべてのもは永遠には続かない』という意味ですが、古典文学の平家物語の冒頭の文章「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり」で有名ですね。

武士たちの力によって強大な権力を作り上げた平家が、あつという間に源氏に滅ぼされてしまった歴史を、仏教に

照らして、諸行無常と表現したものです。祇園精舎というのはお釈迦さまが教えておられた修行道場の名前で、そのお釈迦さまの教えである諸行無常を鐘の響きに託した美しくもはかない名文ですね。

お釈迦さまはどうして「すべてのもは永遠には続かない」と教えたのでしょうか。それは、私たちの心に潜む自己中心的な思いを打ち砕くためでした。私たちの体を見てください、どれもいつかは無くなつてしまうもので、永遠の自分というものは無いのです。ですが、だからと言って、すべては空しく、どうでもいい、ということになるでしょうか。

諸行無常は、みんな無になるという運命論ではありません。永遠には続かないというのは、「みんないつも変わっていく」ということです。もし今の自分が永遠に続くとしたら、どんな努力をしても、変わることができません。諸行無常だからこそ、変わることでできるということなのです。皆さんには、自分はこう

なれたら良いなあと思つていいことはありませんか？私には、お経の原典を知らずらと読めるようになったら良いなあと思つています。

例の高校生も、いろいろと話している間に、勉強嫌いな自分を変えることもできるん

だと思つてくれたようで、あれから受験勉強に励んで無事に大学に合格したそうです。諸行無常を前向きにとらえて、毎日の活力の源にしたいですね。

徳島県城満寺 田村航也師

令和三年六月十一日〜二十日

『白眉殿』建設について

この度は、瑞應寺宝物館「白眉殿」建設の篤志寄付のお願いを申し上げます。早速に多額の浄財を寄進いただきありがとうございます。衷心より御礼申し上げます。作業道も敷設し、白眉庵解体工事も始まりました。この建設に関する経費は、当初東堂老師の基金のみで計画を立てておりましたが、総代会に於いて、「瑞應寺の施設なので寄付を募るべき」との尊いご提案がありました。

そこで協議の結果、コロナ禍の現状をも鑑み、東堂老師の発願を広く有縁の皆様方にお伝えし、そのお心が叶うよう、共にご縁を深めていただきたく、篤志寄付のお願いをした次第です。

今後、駐車場の新設、本堂から白眉殿への渡り廊下の設置、隣接の愛媛県有形文化財の経堂周辺の整備、どなたにも拝観していただけるようバリアフリー化工事等も施工致し度く思っておりますので、ご理解の程お願い申し上げます。

白眉殿建設委員会事務局 合掌



般若入

六月上旬より、当地区恒例行事である「般若入」を厳修。作付けの時期に合わせて地域の五穀豊穰・家内安全・身体健全を祈願した。



般若入

羅漢講式

六月三日(木)、恒例の羅漢講式を門原単頭式師のもと厳修。配役は以下の通り。

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 式師 門原単頭 | 洒 水 慧岳鐘司 | 侍 者 光暉方行 |
| 唄師 道喜首座 | 散 華 徳正菜頭 | 侍 香 秀鳳単頭行 |
| 全 龍慈書記 | 讚頭甲 道喜首座 | 祭 文 家古谷知客 |
| 全 龍慈書記 | 全 乙 龍慈書記 | 伽 陀 吉松維那 |
| 勸 請 小林知殿 | 散 華 孝道鐘司 | 殿行甲 慧岳鐘司 |
| 全 宏真堂行 | 梵 音 英俊辨事 | 全 乙 徳正菜頭 |
| 焼 香 古川副悦 | 錫 杖 利貴菜頭 | |



羅漢講式(散梵錫)



羅漢講式

白眉庵解体諷經

六月七日(月)、白眉庵に於いて、金岡監録導師のもと厳修。



白眉庵解体諷經



羅漢講式(祭文)



羅漢講式(勸請)



羅漢講式(如来唄)

六月の日鑑

- 一日 祝禱
- 六日 日曜參禪会
- 八日 参玄会(十日迄)
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿日 略布薩

七月の予定

- 一日 祝禱
- 二日 本則行茶
- 四日 首座法戦式
- 六日 日曜參禪会
- 六日 参玄会(八日迄)
- 七日 ヘルモニー合同慰霊祭
- 十日 惠光忌
- 十五日 祝禱・略布薩
- 十六日 水供養
- 十八日 観音講・勉強会
- 廿日 大玄忌
- 廿六日 筆供養・弁天大祭
- 卅一日 略布薩

銀杏感謝録

- | | |
|-----------|-----------|
| 愛媛県 安楽寺殿 | 愛媛県 安楽寺殿 |
| 鳥取県 入江順子殿 | 鳥取県 入江順子殿 |
| 岩手県 長福寺殿 | 岩手県 長福寺殿 |
| 東京都 平澤紘子殿 | 東京都 平澤紘子殿 |
| 広島県 西福寺殿 | 広島県 西福寺殿 |
| 鳥取県 同慶寺殿 | 鳥取県 同慶寺殿 |
| 山口県 廣福寺殿 | 山口県 廣福寺殿 |
| 広島県 長福寺殿 | 広島県 長福寺殿 |
| 静岡県 天林寺殿 | 静岡県 天林寺殿 |
| 北海道 瑞英寺殿 | 北海道 瑞英寺殿 |
- (令和三年四月十四日受付迄)

訂正とお詫び

前月号に誤りがありました。ここに謹んで訂正陳謝致します。

四頁の銀杏感謝録

(誤) 静岡県 洞慶寺 (正) 静岡県 洞慶院



鐘声

夏安居が始まり幾日が過ぎました。

暑い季節となつてまいりましたが、お釈迦様の時代には重要な修行期間になりました。夏安居(別名「雨安居」の期間だけ弟子達が一ヶ所に集まり、お釈迦様の教えを聴聞したり、坐禅や研修会を過ごして、いつの間にか自己流になつていったものを軌道修正したり、学びの浅いところを深め、疑問を解くなどの機会を生涯持ちつづける。夏安居、お釈迦様のお徳を偲び日々の在り方を誠めていきたいと思います。(今夏首座)